

議 事 概 要 書

会議名称	第1回伊那市生涯学習基本構想審議会
日 時	令和2年7月6日（月）午後1時30分から午後2時30分まで
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出席者	生涯学習基本構想審議会委員10名（欠席なし） 市長 事務局：教育長、教育次長、生涯学習課長、生涯学習・文化財係長、担当
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
1 開会（教育次長） 2 委嘱 教育次長から説明 本来は市長から委員の皆様それぞれに委嘱書を交付するところであるが、新型コロナウイルス感染防止対応のため、それぞれの席に置いてある。 3 あいさつ（市長） 梅雨も終盤に入り、大雨の季節となりました。三峰川のみぶの里のところ、もう少しで破堤するところだったが、国交省などが24時間体制で毎晩徹夜で対応していただき、事なきを得ましたが、今夜から明日にかけてまた雨になるということです。九州球磨川^{くまがわ}、人吉市では本当にすごい自然災害となっており、川いっぱいの水が流れている様子を見て、これからの時代、地球温暖化が進み、強大な自然災害が起こってくるのかなと思っています。 さて、本日もご参会の教育関係者の皆様、生涯学習関連団体及び地域自治団体の代表者の皆様におかれましては、日ごろより伊那市の教育行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。 新型コロナウイルス感染症対応については、各方面に様々な課題を残しています。公民館や生涯学習センターなどに団体の皆さんが集まって研鑽を積んでおられるわけですが、コロナの関係でいろんな集まりができないということになって久しいわけです。 伊那市では、「いつでも、どこでも、だれもが生涯学習に取り組むことのできる環境づくり」を目指し、平成22年度に、計画期間を令和2年度までの10年間と定めた「伊那市生涯学習基本構想」を策定し、本構想に基づき実施される事業の進行管理を行いながら生涯学習を推進してまいりました。令和元年度末の状況では、全138事業の9割近くが80%以上の達成度という、評価できる数値となっております。本年度で、基本構想の計画期間の終期を迎えることから、「第2次生涯学習基本構想」を策定することになりました。 この10年の間に、少子高齢社会の進行や環境問題の深刻化、情報通信技術の向上など、大きな変化があります。また、ライフスタイルや価値感の多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。これら社会情勢の変化を確実に捉えるとともに、令和元年度を初年度として策定された「第2次伊那市総合計画」を新しい基本構想に反映させることが必要であ	

ると考えます。

委員の皆様には大変お忙しい中ではございますが、それぞれのお立場でご尽力を賜りますようお願いを申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。

4 自己紹介 各委員、事務局が自己紹介

5 会長及び副会長の選出

伊那市生涯学習基本構想審議会条例の説明

条例第3条に基づき、会長及び副会長は、委員の互選により選出する。

事務局案 会長 伊那市公民館運営協議会 細江 孝明さん
副会長 伊那市社会教育委員 中村 幸子さん

→承認

6 会長及び副会長あいさつ

- ・皆さんの力を借りて努めてまいりたい。市総合計画の中で、生涯学習、文化芸術、スポーツそれぞれ基本的な事項が策定され、これからの動きについて示されている。それを基本として、私たちは生涯学習のことについてもっと具体的に施策を決めていきたいと考えている。皆さんのお力をお借りして、いいものを作っていきたいと思う。(細江会長)
- ・生涯学習基本構想は、市民が生涯学習を通じて充実した人生を過ごすこと、学びを通じて、地域でのつながりを通して魅力ある地域づくりの方向性を示したものとする。委員の皆様には幅広い提言を賜りますようお願いしたい。(中村副会長)

7 諮問

市長から会長に諮問書を交付し、審議会に伊那市生涯学習基本構想について諮問

8 会議事項（会長進行）

（1）伊那市生涯学習基本構想について

資料に基づき、事務局説明

<質疑>なし

会長：生涯学習は「個人」と捉えられやすいが、あくまでも「社会に」と考えていただいた方がいいと思う。ボランティアなどの社会的活動も含まれるとあり、人や地域とのつながりを深め、住みよい活力あるまちづくりとあるので、広く考えていただきたい。

（2）第2次伊那市生涯学習基本構想の策定方法について

資料に基づき、事務局説明

<質疑>

委員：アンケートの年齢の回答区分だが、私は文化芸術にかかわっているので、少子高齢化を考えたときに、学生と働いている人、社会人の中でも18歳から23歳くらいの若い人、そういった区分での意見を聞きたい。18歳から29歳という区分だと幅広く、実態が見えに

くいのではないか。

事務局：高校生、大学生、各種専門学生等それぞれの立場で回答いただけると思う。事務局で検討する。

委員：若い年代の人が記載しやすいよう、もう少し積極的に考えてほしい。その人の立場をはっきりさせてアンケートにそれらが見えるようにしてほしいと思うがどうか。

事務局：職業欄で「学生」という項目があり、年齢と職業とで分かる。

委員：18歳未満の人については、調査の予定があるか。

事務局：前回調査からの経年変化を掴みたいということもあり、前回調査と変えず18歳以上を予定している。

委員：少子高齢社会に対応するという意味で、若い人たち、子どもたちの考えを聞くという視点はないか。前回と比較するということは分かるので、追加して子どもたちの考えを聞いてみてはと思うが、必然性がないということか。

事務局：小中高、乳幼児期から生涯学習活動があるので、それぞれアンケートをお願いし、その傾向を掴み、その結果を反映させていくということは、現時点では少々難しいので、それぞれの年齢層の考えをどう掴むか、検討していく。

会長：アンケートの最後に自由記載欄がある。選択肢の調査からは見えない部分がここに現れると思うので、大変だと思うがここを大事に考えていってほしい。

委員：私たちもいろいろな組織の中で、アンケートの最後の自由記載欄はものすごく大事にしている。前段で「どっちでもいいわ」と回答した人でも、最後のまとめのところでは積極的に取り組むような言葉が要所要所で出てくる。大事にしていきたい。

(3) その他

次回：10月12日（月）予定

9 その他 なし

10 閉会